

Nice Town
Good People

こんにちは 町会です



中央区

第13号

こんにちは町会です

東日本橋
三丁目町会



室町
二丁目町会



日本橋
三丁目町会



コーシャタワー
佃自治会



晴海
アーバンプラザ
自治会



ふるさと中央区のコミュニティ 個性あふれる町会・自治会活動

湊三丁目
町会



湊三丁目
町会



**町会・自治会に参加し、
皆さんで快適な生活を
支えていきましょう！**

皆さんは町会・自治会が普段どのような活動をされているかご存じでしょうか。

わたしたちのまち中央区には、170を超える町会・自治会があり、町内の清掃や高齢者宅への見回り、住民同士の親睦を深めるイベントの開催など、さまざまな活動をしています。

なかでも災害や不測の事態に備える防災・防犯活動は、地域コミュニティの核である町会・自治会が中心となっており、重要な活動の一つです。特に防災対策では、小学校など区内23カ所に設置されている防災拠点において、町会・自治会などが主体となって「防災拠点運営委員会」を結成し、災害に備えて地域の協力態勢を確立しています。

普段何気なく暮らしているとなかなか気付かないものですが、町会・自治会のためめ努力によってわたしたちの安全かつ快適な生活は支えられています。

「こんにちは町会です」は、主に町会・自治会に未加入の方を対象に、町会・自治会の活動を少しでも知っていただき、加入・参加へのきっかけとなることを目的としています。

さあ、あなたも町会・自治会の活動に積極的に参加して、快適な地域社会と活力あるコミュニティをともにつくっていきましょう！



「夏の思い出」納涼お楽しみ会

湊二丁目町会 会長 田中久男さん 企画部長 大橋 学さん

田中さんが会長を務める湊二丁目町会には様々な世代が楽しめる行事があります。なかでも近隣の子どもたちも楽しみに待っているお祭りが「納涼お楽しみ会」。八月の最終日曜日に開かれる、出店やゲームを楽しむ子どもも縁日です。

たくさんの出店が並ぶほか、築地警察署の協力もあり、展示される白バイやパトカーに子どもたちが試乗できるのがユニークです。企画部長の大橋さんによると、出店に並ぶのはやさそ

準備は多くの住民が協力して

盛りだくさんのお楽しみ会で、もう一つの目玉は湊二丁目町会の婦人部が中心になって開いたフリーマーケットです。町会の皆さんが持ち寄って出品し、Tシャツなどの衣類をはじめ、茶碗、シーツ、キャリーバッグなどが並びます。これも大好評で、たくさんの人が購入し、それらの売り上げは社会福祉協議会に全額寄付しました。

また、湊二丁目町会ではこのお楽しみ会のほかに、毎年八月の第一週には「鉄砲洲盆踊り大会」を開催しています。そのため、お楽しみ会の準備は盆踊り大会が終



品はお米一キロがなんと四十袋も用意され、Tシャツや人形、おもちゃなども多数あります。抽選で選ばれた数字を町会役員の方が読み上げ、受付でもらった番号と合っていれば、見事景品を獲得できます。夏場の日中にもかわらず、小学生以下の子どもだけでも二百人ほど、たくさんの人が抽選会を楽しんでいました。



地域に輪に加わり、温かな息づかいを感じれば、生活も心強くなることでしょう。田中さんは「この地域に引越してきた人も最初は戸惑うかもしれませんが、一歩踏み出していただければ行事の準備などを通してつながりと思えます。」と呼びかけます。子どもから大人まで楽しめ、地域の団結の輪を広げる納涼お楽しみ会。夏の思い出の心に残るまで残っていくようです。



伝統行事が心をなぐ「子ども餅つき大会」

室町一丁目会 会長 石原康弘さん 副会長 野崎正さん 青年部会長 水谷弘さん



日本橋三越の目の前、むらまち小路では、毎年十二月の第二土曜日に室町一丁目会主催の「子ども餅つき大会」が開かれます。通りは餅つき大会が始まる前から羽根つきを楽しむ子どもたちが溢れ、お祭りムードで盛り上がり、この光景も今では恒例となりました。その羽子板は子どもたちのオリジナル作品で、通りの脇には机が置かれ、思い思いの絵付けができる場所が用意されています。室町一丁目会の婦人部や常盤小学校のPTAの方や、児童館からも先生方を招いて、子どもたちの作業を手伝っています。

午後二時になると、太鼓の演奏を合図に餅つき大会が始まり、会場に三つ用意された臼に餅米が準備されます。水をつけた杵で餅米を軽く整えた後、青年部の威勢の良い掛け声とともに、規則正しいリズムでつきあがる真っ白な餅。羽根つきに夢中になっていた子どもたちは、「べったん、べったん」と聞こえてくる餅つきの音を合図に、今度は臼の前に大行列を作ります。友達とおしゃべりをしたり、餅つきは楽しそうな笑顔でつきあがるのを待ちます。

この餅つき大会は、すでに三十年を越える伝統的な町会行事で、参加者と主催者が一体となって進められていきます。副会長の野崎さんによると、「用意する餅米は七十キロで、三百から四百人分のお餅ができます。」と胸を張ります。

力いっぱいいたお餅は、参加者全員でいただきます。室町一丁目会の餅つき大会は、町会の会員だけでなく、誰でも参加できるのが特徴の一つです。そのため通りがかりの人や、ついその雰囲気にならされてやっつきます。「町会に加入してない方や近隣にお住まいの方とは普段なかなか接する機会がないのですが、こういった行事を機にコミュニケーションをとって意義を伝えます。」と野崎さんはイベントの意義を伝えます。

参加者のたくさんの笑顔で埋め尽くされるむらまち小路の人出は、なんと総勢約五百名にものぼります。そこで配られるお餅は、室町一丁目会ならではのものがあります。磯辺餅、大根のからみ餅、お雑煮、お汁粉など、婦人部の皆さんの手によってたくさんの味が生まれます。また、お雑煮の出汁と具、磯辺餅の海苔はお祭りに賛同する企業の協力により提供されていて、なんとも豪華なお餅料理となります。子どもたちもこの味を毎年楽しみにしているそうです。青年部会長の水谷さんは、「本当に毎回たくさんの子どもたちが来てくれます。前回は百五十人以上が来てくれましたが、今回はさらに多いようです。大成功ですね」と大勢の子どもたちを囲まれて顔がほころびます。餅つき大会の準備は当日の朝から町会役員と青年部が四十名ほどで一気に行います。「皆さんもう馴れていますから。」と水谷さんが言うように、長年経験を積んだ仲間との信頼関係の深さが垣間見られます。餅つき大会当日に役員や青年部が着る、胸元に背中「室町一丁目」と書かれた法被にも、チームワークの良さが表れています。日本橋だけでなく、周辺地域のたくさんの人が集まって楽しんでるために、毎年自信を持って準備や運営にあたっている様子が伝わってきます。



※副会長の野崎正様におかれましては、去る平成二十二年二月二十四日に逝去されました。ご生前のご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。



子どもから大人まで楽しめる納涼お楽しみ会



地域のきずなを深める町会・自治会行事

湊三丁目町会

百年の歴史、無縁仏供養がつなぐ地域の輪
青年部長 桜井 栄さん

東京は江戸と呼ばれていた頃から、東京湾の沖へ沖へと土地を広げてきた都市です。湊三丁目も旧くは「舟松町」という町名で呼ばれていたことからも分かるように、江戸時代は隅田川の河口に広がる海べりの町でした。その名残を感じさせる行事が毎年東京のお盆時期、七月十三日から十六日にかけて行われる「水難事故無縁仏供養」です。

この時期、湊二児童遊園は普段の様子とは一変し、テントが張られ、お盆や仏具、お位牌が鎮座します。準備、運営にと駆け回っているのは桜井さんをはじめとする湊三丁目町会の青年部です。

江戸時代、今の佃島のあたりに流刑を受けた罪人を更生する施設があり、海沿いで暮らす罪人が海へ逃亡しようと飛び込むことがありました。また、関東大震災や第二次世界大戦の火の手から逃れるために、隅田川や東京湾に飛び込んだ人が少なくありませんでした。これらのうち、泳ぎきれず力尽きてしまった人々の多くの遺体は、潮流の影響を受けて今の湊三丁目あたりの岸辺に流れ着いたそうです。

そのような人々を供養するために始まった百年以上続く伝統行事は、湊三丁目町会が運営するようになつてからも六十年以上が経ちました。「かつてこの辺りは本湊と呼ばれており、荷受をしている旦那衆がたくさん住んでいました。その中の有志で供養していたのが始まりだそうです。」と桜井さんは由来を説明します。迎え日の七月十三日には約三十名の青



年部や町会の役員数名が集まり、町会事務所（湊三丁目クラブ）に収納されているテントや仏具を取り出し、準備にとりかかります。夕方の開始に間に合わせるために、作業は当日朝から始め、青年部と役員が一丸となって迅速に進めていきます。夕方四時からカセットテープでお経を流し、供養行事は夜九時頃まで続きます。また毎年迎え日には江東区の円隆院から住職を招き、夕方六時から読経を行っています。

「フラスコ」が増えてきた

最近ではこの行事が、近所に住む方々とコミュニケーションをとる場になっているそうです。もの珍しく集まってきた方や昔からの常連の方など、たくさんの方々が集まり、参列者と青年部の間では自然と会話が生じます。この行事の主な流れは、参列者一人ひとりに青年部から提灯が手渡され、各自が持ち帰って供養をします。送り日にその提灯を持参すると、お菓子と引き換えに返納され、青年部の手によって供養されます。

「供養行事にお菓子をとり入れるなど、一工夫したことにより若い夫婦や小さいお子さん連れなど、気軽に参加してくれる方が増えました。うれしいうれしい限りです。」と桜井さん。故人を敬う気持ちを込めて地域全体に「心のつながり」が広がっています。代々続く伝統行事を続ける使命感と、住民同士の輪が広がっているという充実感が伝わってきます。

東日本橋三丁目町会

信頼関係を結ばれた「見守り活動」
会長 川名信一さん、川名 榮さん
民生委員 渡辺圭子さん

日本橋横山町や馬喰町など、日本最大級の問屋街が広がっているのが東日本橋三丁目町会です。

川名さんが会長を務める東日本橋三丁目町会では、高齢者を孤立させないための「見守り活動」を積極的に行っています。以前から行っていた高齢者見守り活動が、中央区からモデル事業として依頼されたのはここ最近のことです。もともと隣近所とのコミュニケーションが密接で、隣の人が困っているかどうかすぐわかるという土地柄だったため、「お互いに助け合うことは、昔から当たり前のように続けられてきました。」と川名さん。

そのような環境が昔からあったからこそ、見守り活動もスムーズに地域住民に受け入れられたと言います。川名さんは、この地域で唯一の薬局を開いているため、高齢者の健康状態を把握することができ、「地域の相談役」としても活躍されています。

見守り活動の内容としては、町会の会員から高齢者を見守る「あんしん協力員」を募り、情報交換をしながら行っています。東日本橋三丁目町会では約十名の方が協力員として活動しています。特に誰がどの人を見守るというところは決めず、それぞれが普段の生活の中で、気になつていいる高齢者を中心に見守るようになっています。協力員の渡辺さんは、「この町会では出会ったからあいさつをするなど、自然な形で温かく見守っています。日常生活の一環として行うことで、お互いが義務感を感じることなく協力し合えるのだと思います。」と思いやりの心を伝えます。

お互いが顔見知りの大切さ

昨年、ひとり暮らしをしている高齢者のお宅が雨の日に停電していることがありました。この事態は緊

急通報システムによって消防に通報が入ったことで判明したそうです。

消防署からの立会協力の連絡を受けた緊急通報協力員でもある川名さんが、そのお宅に近い協力員に連絡を取り、対応してもらいました。川名さんは「協力員との方が顔見知り、信頼関係があったからこそスムーズに事が運んだのだと思います。」と強調します。

緊急の際には住民同士でスムーズなコミュニケーションが取れる環境作りには、町会行事が貢献しています。餅つき大会や、お祭りなど、地域の行事は高齢者だけでなく、新しくこの地域に引っ越してきた人も積極的に参加する姿が見られるそうです。

川名さんは落語に例え、「下町の住民が隣の家に醤油を借りに行く話がありすが、この地域にはそんな風潮がまだ残っています。」と誇らしげです。

大人だけでなく、それを見て育つ子どもたちにもその気質が受け継がれていると、川名さんは語ります。相手が困っているときに手を貸すのはもちろん、自分が困ったときにも当たり前のよう「手を貸してください」と頼める環境が、ここにはあると言います。世代を超えた信頼の輪が未来へとつながっていきます。



コーシャタワー自治会

高い自治意識が生む強固な防災
会長 田熊秀夫さん

コーシャタワーは地下鉄月島駅から徒歩数分、隅田川を望む三十七階建てのマンションです。大規模マンションゆえに、防災への備えが重要で、コーシャタワー自治会会長の田熊さんは「一番気を遣うのは地震のときです。」と強調します。

マンションで火災が起きても、火元の住居以外へは燃え広がらない設計になっていますが、地震の場合は揺れをセンサーが感知してエレベーターが停止してしまいます。その場合、電力が復旧するまで、エレベーターは動きません。田熊さんは「家が揺れなくなると、陸の孤島化するのが一番怖いです。」と語りま

す。実際、一昨年も地震で二回エレベーターが停止しました。特に住民は夕方、主婦を中心とする多くの住民が一階にある集会所での待機を余儀なくされたということです。

高層階で暮らす人にとって、階段での生活は大変な困難を伴います。このため、地震に備えた安全対策として全世帯に「安否確認シート」を配布しています。

このシートはマグネット式で、地震が起きた際に自宅ドアなど外から見える場所に貼れるようになっています。シートには名前や部屋番号、怪我や病気をしていないか、手助けが必要かなどを記載し、外部から状況が確認できるようになっています。災害被災時には田熊さん指揮の下、自治会役員と、会員から災害時



に手助けしてくれる人を募り登録している防災協力員とが活動の中心となつて対応します。また、役員には居住階のフロア幹事としてトランシーバーが預けられており、集会所に置かれる災害本部と連絡が取れる態勢になっています。地震が起きるとフロア幹事と防災協力員が各フロアの安否確認シートをチェックし、怪我で孤立した人がいないか、必要な物資はないかなどを本部と連絡を取り合います。万が一に備え、昨年からAED（自動体外式除細動器）も設置しました。

三分の食料備蓄が目標

自治会では、生活に必要な物資も備蓄しています。奇数階ごとに、二リットルのペットボトルに入った水を五十本ほど、簡易トイレは各戸に三袋程度、どちらの用意があります。さらに地下の倉庫にはお湯をかければ食べられるフリーズドライ式の五目御飯を備え始めました。

平成七年に起きた阪神・淡路大震災では、地震の後、各家庭に救援物資が届くまで平均三日間かかったと言われています。田熊さんはその教訓を受け、「食料も各階に三分の備蓄を目標とします。」と住民の命を第一に考えています。コーシャタワー自治会の住民の高い関心が防災対策にも生かされています。